

会 議 録

☐ 全部記録 ☒ 要点記録

1	会 議 名	第 1 回 姫路市子ども読書活動推進計画（第 5 次）策定懇話会
2	開催日時	令和 7 年 7 月 2 9 日（火曜日） 1 0 時 0 0 分～1 2 時 0 0 分
3	開催場所	日本城郭研究センター 2 階 中会議室
4	出席者又は欠席者名	<u>出席者</u> 計 2 7 名 策定懇話会委員 1 0 名 姫路市子ども読書活動推進本部委員及び事務局 1 7 名
5	傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人なし
6	議題又は案件及び結論等	1 「姫路市子ども読書活動推進計画（第 5 次）」について 2 「姫路市子ども読書活動推進計画（第 5 次）」の策定スケジュールについて 3 その他
7	会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

第1回 姫路市子ども読書活動推進計画（第5次）策定懇話会 会議録

1 開会（司会：城内図書館長）

2 姫路市子ども読書活動推進本部長挨拶（生涯学習部長）

3 委員及び関係課担当者自己紹介

4 正副会長選出（事務局一任より、事務局より指名）

5 正副会長挨拶

6 議事

（1）議案第1号：姫路市子ども読書活動推進計画（第5次）について

* 本部委員

姫路市子ども読書活動推進計画案（第5次）第1章、第3章の説明
（資料1 姫路市子ども読書活動推進計画案（第5次）のとおり）

* 会長

計画策定の趣旨、背景についての説明があった。ご質問はないか。

* 委員

施策の体系の重点事業の説明を聞き逃したかもしれない。どういう意味か。

* 本部委員

説明を省略した。申し訳なかった。

重点事業と新規事業に印をつけている。重点事業は、新規事業の中でも重点的に取り組むものを選んでいる。
詳細は後程説明する。

* 会長

計画の背景は、現在の社会状況をキャッチアップし計画に反映するために、条件に置かなければならないと思う。第5次計画案2頁に計画策定の背景を7点あげているが、計画に網羅されているということではないか。

* 委員

背景（5）のA Iに関することはどういう形で計画に入っているのか。

* 会長

時代背景として、一昨年頃からA Iの活用が活発になっており読書環境としてどのように対応するか課題であり、今計画にどのように入れていくのかを、後程説明をいただきたい。

中学生の不読率について、全国アンケートでも増加しており、姫路市のデータはそれ以上に増加している。
姫路市の状況について説明をお願いしたい。

* 本部委員

取組状況については第2章で詳しく述べる予定であり、そこでアンケートについても説明をするのでご理解いただけたと思うが、中学生の不読率は全国的に上がっている。その中でも姫路市はより上がっており、大

きな問題と考えている。

*** 本部委員**

現在、市内のすべての学校に司書を配置し、日頃から学校図書館を活用した読書活動を推進している。また、朝読書や休み時間の読書の時間確保などの取り組みを行っている学校もある。

*** 会長**

取り組みの検証がされなければどこに課題があるのか見いだせず、次の計画にどういう対策がいるかの議論にならない。取り組みから成果が生まれているかどうかの検証はどのようになっているか。不読率は、どのような推移になっているのか。

*** 本部委員**

ここ数年間は、教育委員会からの継続的な調査は行っていなかった。昨年度、調査したところ下がっていることがわかった次第である。今後、不読率の上昇の原因について各学校において検討する。

*** 委員**

計画案 13 頁の基本方針 3 点の主語は誰なのか。子どもでよいのか。また、②については、つながりの意味がわかりにくい。③については、子どもが深めるのか、それとも読書によって子どもが深まるのかなど、表現がわかりにくい。

*** 事務局**

②のつながりは、あえて主語を子どもとせず二つの意味を考えている。まず、子ども自身の成長の中での読書活動のつながりということ、子どもがそれぞれの発達段階において読書への支援が受けられるようにするとともに、それにより子どもが成長してまた次の世代への読書活動につながるという意味での「つながり」、もうひとつのつながりとしては、子どもの読書をサポートするための、ボランティアや関係機関の「つながり」、この二つのつながりということで、あえて、主語が子どもとなっていない。

③は、確かにあいまいな表現であるが主語は子どもである。わかりにくいのであれば、表現を検討する。

*** 会長**

この基本方針 3 点は、計画の冒頭部分にくるものであり、計画の中にもフレーズとしてずっと残るものである。説明を聞くと納得できるが、読むだけではわかりにくいので表現の修正が必要と思われる。

*** 委員**

基本目標 12 頁を読んだ率直な感想であるが、12 頁 6 行目からの部分で「読書習慣を定着させる」「身につける」というのは、小さいころから身につけさせるということなのだろうが、計画で対象としているのは 0 歳から 18 歳の子どもであることから、「子ども」という言葉の使い方が難しいと感じる。また、13 頁の「だれもが楽しめる読書」というオープンな感じと 12 頁「身につける」「定着させる」という強制的な表現は相反すると感じる。子どもは、楽しくないと身につかないものである。

*** 会長**

楽しんで読書したその結果が読書習慣につながるということか。

*** 本部委員**

12 頁の基本目標について、なぜこういった取り組みが必要なのかということを伝える構成とし

ている。そもそも読書が必要なのかという議論もある中で、本計画を策定しようとしている。子どもが成長する上で、様々なことを体験することが必要だが、読書によって実体験を補うことができる。またそれだけではなく、読書は文字を頭の中で意味を持つ言葉に変換させることが必要で、その能力を読書によって自然に身につけることができる。そのために読書が必要であるが、それには支援の必要な子どももいる。こういうことを踏まえて、目標を述べている。表現については、検討の必要はある。

* 委員

様々な事情で読めない、などいろいろな子どもがいる。それを考慮する必要がある。

* 本部委員

本計画では0歳から18歳の子どもを対象としている。フレーズによって「子ども」の取り方が変わるので、それがわかる表現になるように検討する。

* 会長

「だれもが」という表現が分かりにくいかもしれない。

基本方針③の「探究」が計画案にどのように入っているのか聞かせていただきたいと思う。

次に、第4次計画における取組状況として、「子どもの読書活動に関するアンケート調査」による現状と課題を事務局から説明をお願いします。

* 事務局

(本文第2章5とアンケート調査まとめについて説明)

* 会長

次に第4次計画の実績と課題、第5次計画の内容について、第4章：第5次計画推進のための施策の項目順に、担当する各課から報告をお願いします。

* (関係各課担当者からの報告)

第4次計画の実績と課題、第5次計画案について(資料「第5次計画案」のとおり)

* 会長

議事の1項目めについてご意見・ご質問はあるか。

* 委員

重点事業、新規事業についてはよくわかった。AIに対しての問題、課題についてはどのように取り組むのか。25頁で触れてあるが、計画の本文にも取り入れてはどうか。

* 事務局

25頁の情報リテラシーの部分で触れているが、計画でも言及できるかどうか検討する。

* 委員

公民館での図書の貸出しはどのようなになっているのか。

* 事務局

自動車文庫事業と関連して、公民館で図書の受渡しサービスをモデル実施する予定である。

* 委員

自動車文庫と同時に実施しているということで了解した。

放課後児童クラブについて、令和8年度から順次民間委託されるということだが、委託後の図書購入予算はどうか。

* 本部委員

委託先の予算で購入となる。行政としては、図書館のリサイクル事業を利用し図書の充実をはかる。

* 委員

24 頁図書館活動の実績値の指標は、人口減少を踏まえてのことか。

* 事務局

そのとおりである。

* 委員

26 頁計画 30 子ども選書会議開催について聞きたい。新規の重点事業とされているが、内容について聞きたい。また、子どもの意見を反映させるということだが、市立図書館の資料収集方針が変わったり、影響を受けたりするようなことがあるのか。

* 事務局

子ども選書会議は、イベントとしての開催を検討している。市立図書館の収集方針を説明した上で子どもに参加してもらう。詳細については、これから検討していく。

* 委員

同じく子ども選書会議で、その際、市内の書店に協力を求めることを検討するとあるが、これは、計画策定背景（7）を考慮してということか。

* 事務局

そのとおりである。背景（7）を反映し、連携の検討を進めたい。例えば、市内の書店に協力を求め、子ども選書会議で使用する書籍の一部を見計らいのような形で用意してもらうなどの検討をしたい。

* 委員

次に、アンケートの手法について聞きたい。学校を通じて、紙ベースで生徒に配布したのか。Webを活用か。

* 事務局

Webを活用している。QR コードを添付した文書を配布し、子どもたちがオンラインで回答するように実施した。

* 会長

委員の指摘の自動車文庫と公民館利用については計画案には入れないのか。

* 事務局

委員指摘の事業はモデルとして翌月より実施するところであり、利便性などを含め今後検討するものであり、本計画に記載する予定はない。

* 委員

4 次計画策定時、民間を含めた数値設定にしていきたいと申し上げたが、今回取り入れてくれている。感謝する。さらにもう一つ、民間の放課後児童クラブも検討の対象としてもらいたい。また、小学校図書館と保・幼連携についてであるが、どの小学校でも対応してもらえるのか。

* 本部委員

実際の受付については各小学校へ相談してもらいたい。

* 会長

そろそろ時間が来ている。他に意見があれば別に述べていただければと思う。

(2)「姫路市子ども読書活動推進計画（第5次）」の策定スケジュールについて

*事務局

今年度、策定懇話会を3回予定している。第1回は本日の7月29日となる。第2回では、本日の懇話会内容を受けた修正案の提示をする。第3回では、最終案を提示する。また、パブリックコメントは令和7年12月から令和8年1月にかけて実施する予定である。

*会長

指標について、可能なら質的に評価できるもの、中身が検証できるものが必要ではないか。各課の課題がクリアになる指標についてご検討いただきたい。

7 閉会（城内図書館長）